

## 長崎県対馬病院実習記 「対馬地区離島実習」

2020.1.20～21

長崎大学医学部医学科

4年 金好 智子

2020年が始まり、東京オリンピックに向かって盛り上がる日本ではありますが、団塊の世代の方々が後期高齢者を迎える2025年、いわゆる2025年問題が現実となる時期は、もうすぐそこまできています。超高齢社会における医療ニーズは、大きく変わっていくのでしょうか。都市部に先駆けて高齢化が進む地方、とりわけ離島では、既に高齢者の方々のニ



ーズを汲み取った地域密着型の医療が展開されておりました。私が実習をさせて頂いた対馬病院には、「地域で患者さんを診る」という意識の高い先生方が多くいらっしゃり、その熱意に大変感銘を受けました。

最初の実習の場、総合外来では、短い時間で、患者さんの症状のみならず、その方がどこに住んでいて、どのような生活をされているのか、治療を継続していくにあたり最適な方法を模索しながら診療をされていました。定型ではなく、患者さん個人に合わせた柔軟な対応は、将来医師として働く際に、ぜひ真似をしたいと思っております。

また、特定健康診断や事業所健診の診察においても、その方のお住まいの地域、対馬在住が長いのか、もしくは転勤で来られている方なのか、お仕事の状況等を事前に必ず確認され、その方に合わせた結果説明や病気の予防方法をご提案されておりました。

本当にすごいのは、専門分野に関わらず、それぞれの患者さんに合わせた対応を「当たり前」に行われている点だと感じております。

その他、手術見学や骨髄穿刺など、様々な手技の見学もさせて頂き、離島医療の質の高さを知ることができました。これから、大学に戻り、実習が続きますが、対馬病院で学んだ精神を忘れず、謙虚に勉強に励みたいと思っております。

最後になりましたが、本実習を通してご指導頂いた永安先生はじめ、対馬病院に勤務されている皆様、そして、患者さんに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。